和弘食品株式会社（証券コード 2813）
投資家向け説明会

Copyright © 2026 WAKOU SHOKUHIN CO., LTD All rights Reserved.

	2024年度	2025年度
売上高 (前年比伸び率)	16,249 百万円	17,343 百万円 (+6.7%)
営業利益 (営業利益率)	1,591 百万円	1,566 百万円 (9.0%)
純利益	1,208 百万円	1,153 百万円

1. 日本

外食向け販売が好調。季節メニュー等の新商品採用も大きく寄与し、売上高は堅調な伸び。

2. 米国

大口取引先の在庫調整により第1四半期に受注が大きく落ち込んだ影響で、売上高の成長が鈍化。

Copyright © 2026 WAKOU SHOKUHIN CO., LTD All rights Reserved.

2026年度（ 2027年３月期）連結事業計画

和弘食品株式会社

	2025年度	2026年度（予想）
売上高 (前年比伸び率)	17,343 百万円	18,423 百万円 (+6.2%)
営業利益 (営業利益率)	1,566 百万円 (9.0%)	1,546 百万円 (8.4%)
1株あたり 配当額 （配当性向）	100 円 (21.6%)	110 円 (24.3%)

Copyright © 2026 WAKOU SHOKUHIN CO., LTD All rights Reserved.

2026年度　事業計画（トピック）

和弘食品株式会社

1. 日本

　前年度に引き続き外食向け販売が業績をけん引。また中食向けについても提案力強化により新規獲得増加を目指す。

　原材料価格上昇に対応した不採算製品の整理、生産コスト削減により収益性向上を重点的に図る。

2. 米国

　米国の一部で見られる外食需要減退のリスク、および大口取引先の在庫調整サイクル織り込む。

　一方で、中長期的には北米のラーメン市場は高い成長ポテンシャルを維持すると思われ、2026年度から市場の拡大に対応した生産能力向上の大規模投資を開始する予定。

3. 東南アジア・欧州

　タイに設立した販売専門子会社は、本格的に事業を開始。東南アジア・オセアニア域内全体をターゲットとしてセールスを展開。

　英国に2026年に設立した子会社についても事業立ち上げを着実に推進。（タイ・英国子会社については、2026年度連結対象外とする見通し）

Copyright © 2026 WAKOU SHOKUHIN CO., LTD All rights Reserved.

和弘食品のあゆみ

和弘食品株式会社

ラーメン食堂創業
和弘食品のルーツ。ラーメン食堂として小樽に**福来軒**をオープン。その後小樽に2店舗、札幌すすきのに1店舗を出店。計4店舗となり小樽の圧倒的な一番店へと成長しました。

1954年 創業

1964年

和弘食品の設立
北海道小樽市で生麺、スープの製造販売を目的として、和弘食品(株)を設立

プロフェッショナル向けの調味料メーカーとして日本国内で販路を拡大

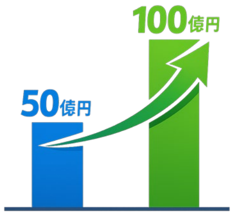
1989年

JPX STANDARD

店頭市場へ株式を公開
（現：東証スタンダード市場）

2015年

WAKOU USA INC. 工場稼働開始
米国カリフォルニア州の現地法人に工場を設置し、現地生産を開始



日本国内では外食大手・中食へ販路を拡大。**売上高100億円規模へ成長**

2022年

札幌証券取引所へ上場
（東証との重複上場）

2024年

WAKOU RAMEN(Thailand)設立

2025年

(株)栄田フーズ株式取得
（その後、和弘エキス(株)へ社名変更）

2026年

WAKOU RAMEN UKを英国に設立

Copyright © 2026 WAKOU SHOKUHIN CO., LTD All rights Reserved.

和弘食品の強み～こだわりの味の再現力

和弘食品株式会社

お店の厨房の味を再現する、こだわりの生産設備

焼成機

鶏や豚などのガラ、海産物や野菜を直火で焼く工程を入れることで調理感や香ばしさ、旨みを出します。

＜鯛だし塩スープ＞
焼成機で焼いた鯛のアラを炊き出した塩ラーメンの素だれ。お湯割りでも本格的な味わいになります。

直火釜

“直火調理”を再現し、素材の美味しさを引き出します。

＜黒マー油＞
直火釜でにんにくとラードを長時間炒めた焦がしにんにくの風味と旨みがある黒いオイルです。

炊出し釜

釜で“炊き出す”ことにより、素材そのものの旨みや香りをダイレクトに付与することができます。

＜本仕込みガラスープ＞
野菜や豚骨などを丁寧に炊き出した無塩無化調タイプの清湯系ガラスープです。

Copyright © 2026 WAKOU SHOKUHIN CO., LTD All rights Reserved.

和弘食品の強み～開発力

和弘食品株式会社

60年の歴史と10万点以上のストックレシピ

10万点を超えるストックレシピと、鋭敏な舌を持つ開発スタッフ、地域や風土の嗜好をピタリと探るマーケティング力は60年間の歴史を通じて培われています。
ラーメンだけでなく、和食、洋食、中華など多くの業界にも対応できます。

※写真は調理イメージです

豊富なレシピ、長年の経験で築きあげた独自の生産管理システム等、“様々なノウハウ”がスピーディな対応を可能とする

Copyright © 2026 WAKOU SHOKUHIN CO., LTD All rights Reserved.

長期ビジョン～当社の目指す姿

和弘食品株式会社

和弘食品グループの存在意義

Wakou Makes Oishii & Happiness.

本物の味づくりによるおいしさによって、世界中に元気と幸せをお届けする

和弘食品グループの優位性

日本で培った味づくりの技術と高い品質
多様な食文化・嗜好に合わせるカスタマイズ力
進出先に合わせた多様な事業形態

ビジョン

Wakou Makes Glocal Taste

ラーメン事業を軸に北海道から世界各国へ本物の味づくりを広める
グローカル*調味料メーカー

事業領域

ラーメンを起点としたグローカル*展開

ラーメンスープをコアとしてラーメン周辺領域・ほか液体調味料領域へと事業範囲を拡大

各国の食文化に合わせてカスタマイズしながら全世界に展開

*グローバルとローカルを掛け合わせた造語で、グローバルに展開しながらもその地域の特性や文化に適応した状態を指す

Copyright © 2026 WAKOU SHOKUHIN CO., LTD All rights Reserved.

中期経営計画（2026年度～2028年度）

和弘食品株式会社

2026年度からの3カ年では、「ワールドワイドへの展開加速」「独自価値の創出・強化」「国内収益の拡大体制構築」「グローバル全体での組織基盤強化」「新領域への進出」の5つを成長戦略の柱とし、着実な実行を通じてラーメンスープの付加価値向上とグローバル展開を進める。

中期経営計画期間のビジョン

The Glocal Engine

和弘ブランドの確立と収益構造強化の推進とともに、ラーメン事業全体へ領域を広げるために
ラーメンスープを世界各国へグローカル展開していく3年間

3年後の事業領域

価値創造のコアとなるラーメンスープのワールドワイド展開

スープの世界展開、付加価値向上、収益構造強化に注力するとともに、領域拡大に向けた調査・探索も推進

中期経営計画　5つの主要戦略

- ①ワールドワイドへの展開加速
- ②独自価値の創出・強化
- ③国内収益の拡大体制構築
- ④グローバル全体での組織基盤強化
- ⑤新領域への進出

Copyright © 2026 WAKOU SHOKUHIN CO., LTD All rights Reserved.

中期経営計画の業績目標

	グループ全体	連結対象	日本	米国	アジア･欧州等
売上高	173億円 (2025年度) → 207億円 (2028年度) +34億円	173億円 (2025年度) → 200億円 (2028年度) +27億円	132億円 (2025年度) → 145億円 (2028年度) +13億円	45億円 (2025年度) → 55億円 (2028年度) +10億円	― (2025年度) → 7億円 (2028年度) +7億円
営業利益	15.3億円 (2025年度) → 18.5億円 (2028年度) +3.2億円	15.7億円 (2025年度) → 18.5億円 (2028年度) +2.8億円	5.6億円 (2025年度) → 6.1億円 (2028年度) +0.5億円	10.5億円 (2025年度) → 12.4億円 (2028年度) +1.9億円	―
営業利益率	8.8% (2025年度) → 8.9% (2028年度)	9.0% (2025年度) → 9.3% (2028年度)	4.3% (2025年度) → 4.3% (2028年度)	23.5% (2025年度) → 22.5% (2028年度)	―

注）・『連結対象』は2025年度時点での連結対象会社です。連結の範囲は2026年度以降に変更となる可能性があります。
・『グループ全体』には、『連結対象』に加えてWAKOU RAMEN(Thailand)、WAKOU RAMEN UK、和弘エキス(株)を含みます。
・計画の前提となる為替レートは　米ドル 150円/USD、タイバーツ 5円/THB、英ポンド 200円/GBP です。
・営業利益率は端数調整前の売上高・営業利益から計算しております。

Copyright © 2026 WAKOU SHOKUHIN CO., LTD All rights Reserved.

中期経営計画　キャッシュアロケーション（3カ年）

和弘食品株式会社

米国・東南アジア・欧州でのグローバル展開のため、工場増設/新設等の成長投資に優先的に配分。
財務安定性を確保しつつ、継続的に配当性向30%の株主還元を目指す。

キャッシュイン	キャッシュアウト	内容	
営業CF（50億円）	事業成長投資（42億円）	国内	■ 国内生産体制の再構築・強化 ■ 労働環境改善のための工場設備改善
		海外	■ 米国の製造キャパシティ向上 ■ アジア、欧州での追加的な製造設備投資
		国内/海外	■ 新たな事業領域拡大に向けた投資（設備投資/事業提携等）
	基盤強化投資（16億円）		■ 既存の製造設備維持のための、定期的な設備投資
資金調達（20億円）	株主還元（9億円）		■ 最終年度までに配当性向30%以上を目標とした株主還元の向上
	その他（3億円）		■ 人的資本の拡充、財務基盤強化等

Copyright © 2026 WAKOU SHOKUHIN CO., LTD All rights Reserved.

“おいしさ” で、元気と幸せを世界中へ。

成長に向けた投資と事業基盤の強化を着実に進めてまいります。

引き続き、みなさまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

Copyright © 2026 WAKOU SHOKUHIN CO., LTD All rights Reserved.